

韓国語の副詞的成分일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] の意味分析 ー日本語の「早(速)く」との対照の観点からー

李 澤 熊

キーワード：時間関係の副詞的成分、類義語、多義語、日韓対照、対応関係

1. はじめに

本稿の目的は、類義関係にある韓国語の副詞的成分일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] について、日本語の「早(速)く」との対応関係を指摘しながら、相互の意味の類似点・相違点を明らかにすることである。

下の例(1)と例(2)のように時間関係の副詞的成分「早く」は、韓国語に訳すと、일찍 [iltʃ'ik] また는빨리 [p'alli] に対応することが分かる。

しかし、例(3)のようにどちらとも置き換えが可能な場合もあり、具体的にどのような対応関係にあるかについては必ずしも明確ではない。

- (1) 金川義助が隣室に去ってから、加藤はその涙のあとを避けるようにして布団を敷いた。翌朝早く(일찍 [iltʃ'ik]) 加藤は隣室の騒ぎで眼を覚ました。金川義助の妻の陣痛が始まったのである。(新田次郎『孤高の人』:570)
- (2) 「ロープよ！」と突然娘が叫んだ。
「ロープ？」
「ねえ、早く(빨리 [p'alli]) ここに来てみて。ロープがさがってるわ」
(村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』:868)
- (3) 「ここにお着きになったのは、一月二十一日の夜の九時ごろでした。二十二日と二十三日におとまりでしたが、昼間は仕事だといってお出かけになり、夕方早く(일찍 [iltʃ'ik]/빨리 [p'alli]) お帰りでした。べつに変わった様子もありません。静かな方でした」(松本清張『点と線』:245)

そこで、本稿では일찍 [iltʃ'ik]/빨리 [p'alli] と「早く」の意味を明らかにすることによって、互いにどのような対応関係にあるかについても詳しく考察する。

ここで、本稿の構成について簡単に述べておく。

まず、2. では일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] の意味の類似点・相違点を明らかにする。

次に、3. では李 (2006) を踏まえて、「早く」の意味を考察する。

続いて、4. では意味分析の結果に基づき、일찍 [iltʃ'ik]/ 빨리 [p'alli] と「早く」がどのような対応関係にあるかを明らかにする。

最後の 5. は本稿のまとめである。

2. 일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] の意味分析

本節では、일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] を比較し、相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。

まず、両語の類似点について考察する。次の例を見てみよう。

- (4) 날이 밝자 그는 일터로 나갔고 그날도 병원에 가서 치료를 받고 일찍 (빨리) 귀가했다. (KAIST:3628)

(日が明けると、彼は仕事場に出かけ、その日も病院に行つて治療を受け、일찍 [iltʃ'ik] (빨리 [p'alli]) 帰宅した。)

- (5) 아내와 결혼 기념일. 「오늘은 빨리 (일찍) 돌아오셔야 해요!」 (KAIST:3706)

(家内との結婚記念日。「今日は빨리 [p'alli] (일찍 [iltʃ'ik]) 帰ってくださいね!」)

以上の例は、일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] をそれぞれ言い換えることができ、文の持つ意味もほとんど変わらない。

まず、以上の例では「ある事柄（ここでは行為）の成立・実現」が問題となっていることが分かる。また、それは「何らかの時間の基準点に比べ、(それより) 前に成立・実現する」というようにとらえられる。

例えば、例 (5) の場合は「夫が家に帰る」という行為が問題となっており、また、それは「普段の帰宅時間と比べて前に成立・実現する」というように解釈できる。

以上のことから、일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] は、＜問題となる事柄が基準となる時点より前に成立・実現する＞という共通の意味を持つことになる (注 1)。

しかし、両語は違う意味の側面も持つ。以下の例において、일찍 [iltʃ'ik] を빨리 [p'alli] に置き換えてみると、この文脈では、不可能か不自然な文になる。

- (6) 홀어머니와 그리고 일찍 (?? 빨리) 홀로된 언니 하나가 있을 뿐이었다. (KAIST:2075)

(やもめの母とそして일찍 [iltʃ'ik] (?? 빨리 [p'alli]) 独りになった姉が一人いるだけだった。)

- (7) 그러나 EU 당국자들은 이날 일찍 (?? 빨리) 도쿄에서 개최된 일본과 EU 무역

관리들간의 회담에 뒤이어 발표된 이 성명이...(KAIST:2836)

(しかし、EU 当局者達はこの日일찍 [iltʰik](?? 빨리 [p'alli]) 東京で開催された日本と EU 貿易官吏達との会談の後に発表されたこの声明が…)

(8) 드디어 친구는 자기 집을 도둑 뺑이처럼 빠져나왔다.

「야, 너희들 일찍 (*빨리) 어디 가냐?」

나룻배에 오르니 동네 사람들이 묻는다.(KAIST:651)

(ついに友達は自分の家から泥棒猫のように抜け出してきた。

「おい、君たち일찍 [iltʰik](*빨리 [p'alli])どこに行くんだい?」

渡船に乗ると、村の人たちが尋ねる。)

まず、以上の例からは「問題となる事柄（人間の行為や出来事など）の発生を何らかの時間の基準点と比較している」ことが分かる。例えば、例(6)は「姉が独り（やもめ）になる時点」を「一般的に考えられる（予測される）夫婦が死別する時点」と比較している。例(8)の場合も「友達がどこかへ行く時点」と「(文の中には現れていないが)通常の場合考えられる、朝家を出ていく時点」とを比較している。

また、以上の例は「問題となる事柄の発生は比較される時間の基準点より前に位置する」ことを表していると考えられる。例えば、例(6)は「姉が独り（やもめ）になる時点」と「一般的に考えられる夫婦が死別する時点」とを比較し、「姉が独り（やもめ）になる時点の方が前に位置する」ということを表している。つまり、「通常の場合なら、夫婦の死別というのは年を老いて訪れるものであるが、その予想より前に発生した」ということである。例(7)の場合も「会談の開催時点」と「通常の場合考えられる会談の開催時点」を比べ、「前者の方が前に発生する」ということを表していると考えられる。

以上のことから、일찍 [iltʰik] の意味は<問題となる事柄の発生が><基準となる時点より><前に位置する>ことを表すと記述することができる（注2）。

続いて、빨리 [p'alli] を取りあげる。次の例を見てみよう。

(9) 어머니 난 편지를 써야겠어요.(이층으로 빨리 (*일찍) 올라간다.)(KAIST:2710)

(お母さん私は手紙を書きます。(2階に빨리 [p'alli](*일찍 [iltʰik])上がる。)

(10) 과장은, 「잔잔 더 주시오」라고 말했다. 변변히 안주도 없는 술인지라 빨리 (*일찍) 취했다.(KAIST:3706)

(課長は、「もう一杯ください…」と言った。ろくなお肴もなかったので、빨리 [p'alli](*일찍 [iltʰik])酔いが回った。)

(11) 머리를 아래위로 빨리 (*일찍) 끄덕인다. 그러고는 폭소한다.(KAIST:2701)

(頭を上下に빨리 [p'alli](*일찍 [ilt'ik]) うなずく。そして爆笑する。)

(12) 심문관 : 빨리(*일찍) 자백하세요. 당신은 남이야 북이야?(KAIST:2707)

(審問官 : 빨리 [p'alli](*일찍 [ilt'ik]) 白状しろ。あんたは南か北か?)

まず、以上の例は「ある事柄（人間の行為や出来事など）の動き・状態変化の進行の様子」を問題にしていることが分かる。また、その進行の様子の程度というのは「何らかの基準に比べて大きい」というようにとらえることができる。例えば、例(9)の場合「2階に上がる様子」は「何らかの基準（例えば、我々人間が一般的に考えられる基準）に比べて、進行の程度が大きい（つまり、速度が大きい）」ということになる。また、例(10)も「酒の酔う進行の程度が、普段の時に比べ、大きい」というように解釈することができる。

以上のことから、빨리 [p'alli] の意味は<問題となる事柄の><動き・状態変化の進行程度が><何らかの基準に比べて><大きい様子>を表すと記述することができる。

それでは、ここで両語の意味の相違点について考察する。結論から先取りすると、両語の違いは次のようにまとめられる。

일찍 [ilt'ik] は「問題となる事柄が発生する時点」に注目して述べる場合に用いられるのに対して、빨리 [p'alli] は「問題となる事柄の動きや状態変化の進行の様子」に注目して述べる場合に用いられる。

このことを例文に基づいて説明してみよう。

まず、上の例(6)～(8)における일찍 [ilt'ik] は빨리 [p'alli] で言い換えることができない（または、不自然な文になる）。それは、文の状況から分かるようにいずれの場合も「問題となる事柄が発生する時点」に注目しているからであると考えられる。例えば、例(6)は、上でも述べたように「姉が独り（やもめ）になる時点」に注目し、「一般的に考えられる夫婦が死別する時点」と比較し、「姉が独り（やもめ）になる時点の方が前に位置する」ということを表している。この場合、빨리 [p'alli] が用いられにくいのは、「問題となる事柄の動きや状態変化の進行の様子」に注目するということが考えにくいからである。

一方、例(9)～(12)における빨리 [p'alli] は일찍 [ilt'ik] で言い換えることができない。それは、文の状況から分かるようにいずれの場合も「問題となる事柄の動きや状態変化の進行の様子」に注目しているからであると考えられる。例えば、例(11)は「頭を上下にうなずく」という「事柄の動きの進行の様子」に注目し、その進行の程度が「何らかの基準（例えば、我々人間が一般的に考えられる基準）に比べて大きい」という

ことになる。この場合、일찍 [iltʃ'ik] が用いられないのは、「問題となる事柄が発生する時点」に注目するということが考えられないからである。

ここで、일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] が両方用いられる例を見てみよう。

- (13) 「인터넷 접수를 원할 경우 원서 마감일을 피해 일찍 (빨리) 접수해 달라」고 당부했다.(KAIST:2765)

(「インターネット受付を希望する場合、願書締め切り日避けて、일찍 [iltʃ'ik](빨리 [p'alli]) 受け付けてほしい」とお願いした。)

- (14) 영문과를 선택하고 가능한한 빨리 (일찍) 유학을 준비해!(KAIST:2675)

(英文科を選択しできるだけ빨리 [p'alli](일찍 [iltʃ'ik]) 留学の準備をしろ!)

以上の例における「(願書を)受け付ける」、「留学の準備をする」という事柄は「基準となる時点より前に成立・実現する」ことを表している。

ただし、일찍 [iltʃ'ik] を用いた場合は「事柄の開始時点そのもの」に注目されるのに対して、빨리 [p'alli] を用いた場合は「動きの進行の様子」に注目される(ぐずぐずしないで、さっさと)。

3. 「早く」の意味分析

本節では、李(2006)を踏まえ、「早く」の意味を考察する。

「早く」は以下の例のように、明らかに違う意味で用いられる場合がある。

- (15) 金川義助が隣室に去ってから、加藤はその涙のあとを避けるようにして布団を敷いた。翌朝早く (일찍 [iltʃ'ik]) 加藤は隣室の騒ぎで眼を覚ました。金川義助の妻の陣痛が始まったのである。(例(1)の再掲)

- (16) 思わずふらふらとすると、「ぐずぐずするな。早く (빨리 [p'alli]) はいれ。」と扉のかけで声がした。(三浦哲郎『忍ぶ川』578)

まず、例(15)は概略「眼を覚ます時点が、何らかの基準(例えば、普段の場合)に比べて、前に位置する」というようにとらえられる。また、例(16)は概略「『はいる』行為の進行の程度が何らかの基準に比べて大きい」というように解釈することができる。

さて、以上の例における「早く」を韓国語に訳した場合、それぞれ異なる語が対応していることが分かる。これに関連して初山(2006)は、多義的別義の認定基準として「複数の語が外国語の1語に対応(または、その逆)」が考えられると指摘している。

例えば、現在刊行されているいくつかの辞書を調べてみると、「(ポンプで池を) ほす」と「(ぬれた手を) かわかす」という2語は韓国語의 말리다 [mallida] に対応していることが分かる。また、その逆の例として、「きれい」という語は英語の clean と beautiful の両方に対応していることが分かる。つまり、말리다 [mallida] と「きれい」は多義語である。

ただし、ここで注意しなければならないことは、このようなケースすべてが多義語認定の基準になるとは限らないということである。例えば、日本語の「時計」を英語で表すと clock または watch になるが、しかしそれをもって「時計」を多義語と言わない。同じような例として、韓国語의 동생 [donsaeng] は日本語の「妹」と「弟」の両方に対応するが、동생 [donsaeng] は多義語ではない。

以上のような例は「子供」に対する「男の子」「女の子」の関係と同様なケースとして考えられる。これに関して、池上 (1975:126-127) は次のように述べている。

まず、第1に、多義として立てられた個々の意味はすべて同じ次元に属していると言うことができよう。たとえば、child の場合の<男の子>と<女の子>はいずれも<子供>という次元に属する。

次に第2に、それら同一の次元に属する個々の意味は同一の次元に立った上で、それ自身の有するある特徴によってたがいに区別されている。たとえば、<男の子>と<女の子>という意味はいずれも<子供>という次元に立った上で、それぞれが有する<男>と<女>という特徴によってたがいに区別されている。そのような特徴はそれぞれの意味の「示差的特徴」であるが、上で「一般的意味」の場合として見た例では、個々の意味の示差的特徴をすべて合わせると、その次元に属する可能性のあるもののもちうる示差的特徴のすべてが尽くされるという事情が存在している。言い換えれば、個々の意味はそれぞれの示差的特徴によってたがいに対立しているわけであるが、そのように対立する意味のすべてを合わせるとそれらが属している次元の全域が余すところなく覆いつくされるわけである。たとえば、<男の子>と<女の子>という意味は<男>と<女>という示差的特徴を通じて対立するかたわら、両者で<子供>という次元を余すところなく覆うわけである。つまり、child は<子供>という「一般的意味」をもつ語彙素であって、<男の子>と<女の子>という二つの意味をもつ「多義」語ではないのである。

以上のように、本稿では「早く」について多義語とする立場をとり、次のように2つの別義を認めて分析をすすめていく (注3)。

別義 1 : <問題となる事柄の発生が><基準となる時点より><前に位置する>

- (17) それから十日程して、朝早く、鮎太がまだ寝ているうちに金子が訪ねて来た。
(井上靖『あすなろ物語』:185)
- (18) 両親を早く失って義兄の家で世話になるが、そのあまりにひどい仕打ちから中学卒業と同時に田舎に帰りその後大阪に出てくる。(http://www.amazon.co.jp)
- (19) わたしの降りる駅は遠いから、夜は早く電車がなくなるのです。(三浦哲郎『忍ぶ川』:267)

まず、以上の例からは「問題となる事柄（人間の行為や出来事など）の発生を何らかの時間の基準点と比較している」ことが分かる。例えば、例(17)は「金子が訪ねて来る時点」を「(例えば)一般的に考えられる人の家を訪ねる時点」と比較している。例(18)の場合も「両親を失った時点」と「一般的に考えられる両親が亡くなる時点」とを比較している。

また、以上の例からは「問題となる事柄の発生は比較される時間の基準点より前に位置する」ことを表していると考えられる。例えば、例(19)は「私の降りる駅の最終電車時刻」と「他の（一般の）駅の最終電車時刻」を比べ、「前者の方が前に位置する」ということを表していると考えられる。

別義 2 : <問題となる事柄の><動き・状態変化の進行程度が><何らかの基準に比べて><大きい様子>

- (20) 私は大した理由もなく、このグループの後を追いかけた。彼らは身軽だから大変速く走る。(藤原正彦『若き数学者のアメリカ』:494)
- (21) 吟子は寝ずに枕元についたまま一時間おきに湿布をとり替えた。志方は眼を閉じ、そのうち眠った。眠りながら呼吸だけ早く小さくくり返した。(渡辺淳一『花埋み』:859)
- (22) 『いいや、頭の上が星で一杯です。おや、なんという大きな強い星なんだろう、それに見たこともない空の模様ではありませんか、一体あの十三連なる青い星は前どこにあったのでしょうか、こんな星は見たことも聞いたこともありませんね。僕たちぜんたいどこに来たんでしょうね』
『あら、空があんまり速くめぐりますわ』(宮沢賢治『銀河鉄道の夜』:81)

まず、以上の例は「問題となる事柄（人間の行為や出来事など）の動き・状態変化

の進行の様子」を問題にしていることが分かる。また、その進行の様子の程度というのは「何らかの基準に比べて大きい」というようにとらえることができる。例えば、例(20)は「彼の走りの様子」は「通常我々が一般的に考えられる基準に比べて、進行の程度が大きい(つまり、速度が大きい)」ということになる。また、例(22)の場合も「私(我々)が今まで見てきた空(星の動き)より、変化の進行程度が大きい(つまり、速度が大きい)」というように解釈することができる。

以上のように、「早く」の<別義1>と<別義2>について見てみたが、このことを図で示すと、概略次のようになる。

図1 <別義1> : <問題となる事柄の発生が><基準となる時点より><前に位置する>

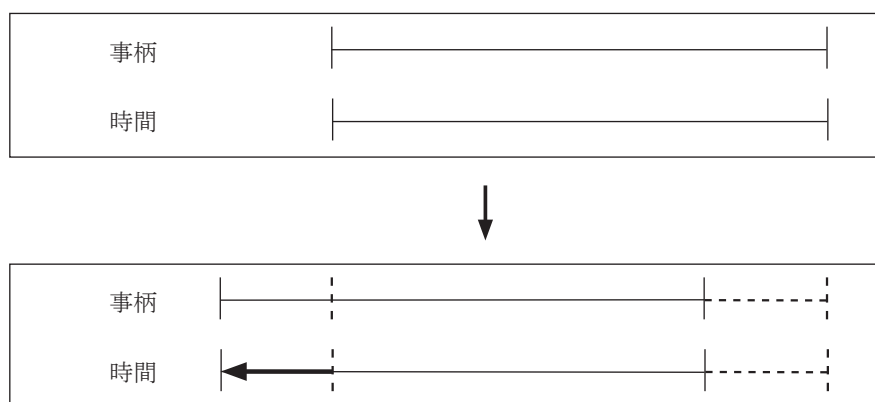
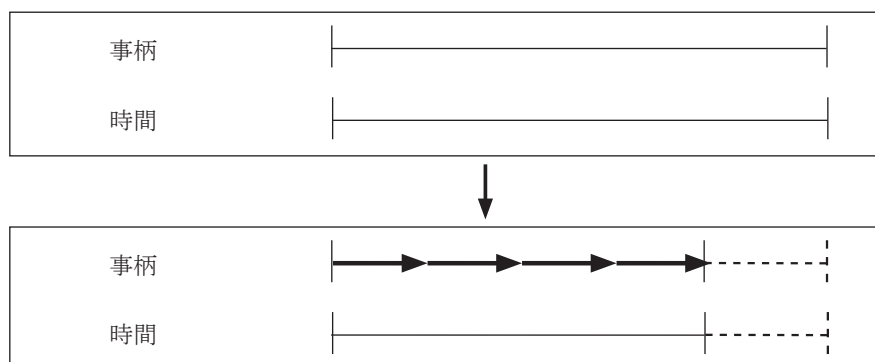


図2 <別義2> : <問題となる事柄の><動き・状態変化の進行程度が><何らかの基準に比べて><大きい様子>



まず、「事柄(動き・出来事・状態など)の変化(進行)は時間軸にそって現れる」

と考えられ、＜別義1＞は「図1」のように示すことができる。つまり、＜別義1＞は「問題となっている事柄の発生時点（時間軸）に注目しており、それが基準となる時間軸より前に位置する」ということになる。

次の＜別義2＞は「事柄（動き・状態変化）全体の様子に注目し（つまり、「ひとまとまり」としてとらえ）、その進行程度が大きい」ということから、「図2」のように示すことができる。

ここで、＜別義1＞と＜別義2＞の関連性について考えてみよう。

まず、＜別義1＞の場合、「図1」から分かるように、「問題となる事柄の発生が基準となる時点より前に位置する」ということは、言い換えれば「当該の事柄が成立・実現する時点も基準となる時点より前になる」と考えられる。

一方、＜別義2＞の場合、「問題となる事柄の動きや状態変化の進行程度が大きい」ということは、必然的に「その事柄が成立・実現するまでの所要時間は短くなる」と考えられる。例えば、「10分間、縄を回す」とした場合、その回し方、つまり進行の程度（速度）を2倍にすると、「5分間で10分間回した運動量と同一になる」ということになる。このように考えると、＜別義2＞からは「図2」のように「問題となる事柄が成立・実現する時点は基準となる時点より前になる」という意味も読みとれる。

以上のことから、＜別義1＞と＜別義2＞は＜問題となる事柄が＞＜基準となる時点より＞＜前に成立・実現する＞という共通の意味を持つことになる。

なお、この＜別義2＞と＜別義1＞は明確に区別されるわけではなく、互いに連続的であると考えられる。

ここで、多義化における意味の連続性を指摘しておく必要があるだろう。多義的別義間の連続性については様々な文献で指摘されている。例えば、田中(1999:62)は「見る」の多義分析において、基本義（視覚によって対象を認知する：走りながら空を見た）と第2義（対象を視覚的に認知し、さらにより高次の理解・判断を行う：相手の顔色・反応・出方を見る）について「人は何かを見ると自然にその対象を必要なかぎりどこまでも理解し判断し評価しようとする。対象をあるカテゴリーのものとしてその存在を認知しそこで止まるか、それともその対象に注意を集中してさらなる判断を下そうとするかは、見る主体の関心のありようや必要性によってさまざまなケースがありうる。したがって第2義は基本義と切れ目なく連続している」と述べている（注4）。

ここで、次の例を見てみよう。

- (23) 加藤と油谷が言葉を交わしたのは、その畳替えの最中に一時的に油谷の荷物を加藤の部屋に持ち込んだ時ぐらいのものだった。朝は加藤の方が早く（일찍 [iltʰik]/빨리 [pʰalli]）出勤するから、油谷と階下の茶の間で顔を合わせるこ

はなかった。(新田次郎『孤高の人』:1079)

上の例における「早く」は<別義1>とも<別義2>とも解釈できる。例(23)は「加藤の出勤が油谷より前に成立・実現する」ことを表しているが、「事柄の発生時点」に注目すると、<別義1>になる。しかし、「出勤する」という動きの様子に注目すると、今度は<別義2>となる。これは、上の例における「早く」を韓国語に訳した場合、일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] の両方に対応することからも分かる。

このように、<別義1>と<別義2>は切れ目なく連続しており、両者の間に境界線は引きがたいと考えられる。

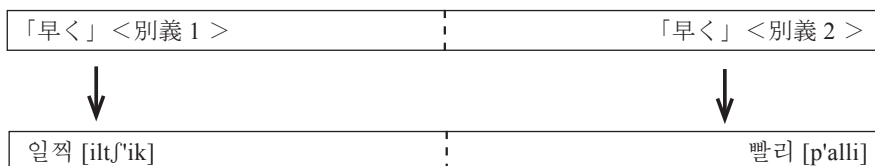
4. 일찍 [iltʃ'ik]/빨리 [p'alli] と「早く」の対応関係について

以上のように、本稿では일찍 [iltʃ'ik]/빨리 [p'alli] と「早く」を取り上げ、相互の意味の類似点・相違点を明らかにした。

ここでは、以上の分析結果に基づき、일찍 [iltʃ'ik]/빨리 [p'alli] と「早く」が、それぞれどのような対応関係にあるかについて考察する。

結論から先取りすると、それぞれの対応関係は、次のようにまとめられる。

図3 일찍 [iltʃ'ik]/빨리 [p'alli] と「早く」の対応関係



以下の例を見てみよう。

- (24) それから十日程して、朝早く (일찍 [iltʃ'ik])、鮎太がまだ寝ているうちに金子が訪ねて来た。(例(17)の再掲)
- (25) 혼자 몸으로 일찍 (早く (別義1)) 딸까지 잃어버리고 오직 외아들만을 바라고 살아온 어머니에게는 ... (KAIST:1483)
(独り身で일찍 [iltʃ'ik] (早く (別義1)) 娘まで失ってしまい、ずっと一人息子に頼って生きてきたお母さんには…)
- (26) 吟子は寝ずに枕元についたまま一時間おきに湿布をとり替えた。志方は眼を閉じ、そのうち眠った。眠りながら呼吸だけ早く (빨리 [p'alli]) 小さくくり返した。(例(21)の再掲)

(27) 리차드와 준은 서로 바라보고 나서 종종걸음으로 빨리 (早く (別義 2)) 식당으로 뛰어간다. (KAIST:2710)

(リチャードとジュンはお互い見つめ合うと、小股歩きで빨리 [p'alli] (早く (別義 2)) 食堂の方へ走っていく。)

例 (24) における「早く」は일찍 [iltʃ'ik] に置き換えられ、文の持つ意味もほとんど変わらない。この場合の「早く」は「金子が訪ねて来る時点が、(例えば) 一般的に考えられる人の家を訪ねる時点に比べて、前に位置する」というようにとらえることができる。つまり、＜問題となる事柄の発生が＞＜基準となる時点より＞＜前に位置する＞という＜別義 1＞となる。また、例 (25) における일찍 [iltʃ'ik] も「早く」の＜別義 1＞と同様にとらえられる。このことから、일찍 [iltʃ'ik] は「早く」の＜別義 1＞に対応するということと言える。

それに対して、例 (26) における「早く」は빨리 [p'alli] に置き換えられ、文の持つ意味もほとんど変わらない。この場合の「早く」は「呼吸のくり返しが、一般的に考えられる基準に比べて進行程度が大きい」というように解釈することができる。つまり、＜問題となる事柄の＞＜動き・状態変化の進行程度が＞＜何らかの基準に比べて＞＜大きい様子＞という＜別義 2＞となる。また、例 (27) における빨리 [p'alli] も「早く」の＜別義 2＞と同様にとらえられる。このことから、빨리 [p'alli] は「早く」の＜別義 2＞に対応するということになる。

さらに、次の例を見てみよう。

(28) 翌朝七瀬が出勤して教務課室へ入ったのは定刻ぎりぎりであったが、尾上の姿はなかった。尾上はいつも早く (빨리 [p'alli]/ 일찍 [iltʃ'ik]) 出勤し、絶対に遅刻はしない男だった。彼は消されたのだ、と七瀬は思った。(筒井康隆『エディプスの恋人』:263)

(29) 아내와 결혼 기념일. 「오늘은 빨리 (일찍 / 早く) 돌아오셔야 해요!」(例 (5) の再掲)

(家内との結婚記念日。「今日は빨리 [p'alli] (일찍 [iltʃ'ik]/ 早く) 帰ってくださいね!」)

上でも述べたように、早くの＜別義 1＞と＜別義 2＞は切れ目なく連続しており、両者の間に境界線は引きがたい。そのため、例 (28) のように、일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] のどちらとも置き換えが可能な場合もある。つまり、「問題となる事柄の発生時点」に注目すると＜別義 1＞となり、일찍 [iltʃ'ik] が対応し、「問題となる事柄の動き・状態変化の様子 (進行程度)」に注目すると＜別義 2＞となり、빨리 [p'alli] が対応する。

5. まとめ

以上、本稿では、類義関係にある韓国語の副詞的成分일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] について、日本語の「早く」との対応関係を指摘しながら、相互の意味の類似点・相違点を明らかにした。「早く」については、多義語とする立場をとり2つの別義を認めて分析を行った。

分析の結果、일찍 [iltʃ'ik] は「早く」の<別義1>に、빨리 [p'alli] は「早く」の<別義2>に対応することが分かった。ただし、<図3>にも示したように、早くの<別義1>と<別義2>は切れ目なく連続しており、両者の間に境界線は引きがたいため、例によっては、일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] のどちらも置き換え可能な場合があるということを指摘した。

일찍 [iltʃ'ik] と「早く」<別義1>

<問題となる事柄の発生が><基準となる時点より><前に位置する>

빨리 [p'alli] と「早く」<別義2>

<問題となる事柄の><動き・状態変化の進行程度が><何らかの基準に比べて>
<大きい様子>

일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] の意味の類似点・相違点

일찍 [iltʃ'ik] と빨리 [p'alli] は<問題となる事柄が基準となる時点より前に成立・実現する>という共通の意味を持つ。

ただし、일찍 [iltʃ'ik] は「問題となる事柄が発生する時点」に注目して述べる場合に用いられるのに対して、빨리 [p'alli] は「問題となる事柄の動きや状態変化の進行の様子」に注目して述べる場合に用いられる。

注

- 1 現在刊行されている辞書を調べてみると、일찍 [iltʃ'ik] は일찍이 [iltʃ'igi] の省略形として扱われている。そこで、本稿では「이」の有無が일찍 [iltʃ'ik] の本来の意味には関与しないと考え、同様なものとして考察していく。
- 2 일찍 [iltʃ'ik] は今記述した意味と異なる意味で用いられることがある。例えば、次のような例の場合である。

①법학의 인기가 이렇게 높았던 때는 일찍 없었던 것 같다. (KAIST:1816)

(法学の人氣がこんなに高かった時は일찍 [iltʃ'ik] なかったようだ。)

この場合の일찍 [iltʃ'ik] は「かつて、今までに」というような意味に近いと考えられる。本稿では、この場合の일찍 [iltʃ'ik] は빨리 [p'alli] と類義関係にないため、考察の対象としない。

3 国広 (1982:97) は、多義語について『多義語 (polysemic word)』とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」と定義している。本稿においてもこの定義に従う。なお、2つの意味における基本義（プロトタイプの意味）の認定に関する考察は、今後の課題としたい。

4 初山 (2001:55) は「多義語の複数の意味が、必ず、互いに他の意味と明確に区別されて、非連続的に存在するということではない」と述べている。

参考文献

- 池上嘉彦．1975．『意味論』大修館書店．
- 李澤熊．2006．「副詞の性質に関する一考察～類義語分析を通して～」『名古屋大学日本語・日本文化論集』第13号．pp. 41-69．名古屋大学留学生センター．
- 国広哲弥．1982．『意味論の方法』大修館書店．
- 朱信源（編）．2005．『標準韓国語辞典』白帝社．
- 田中聡子．1999．『視覚動詞の意味論』名古屋大学国際言語文化研究科博士学位論文．
- 飛田良文・浅田秀子．1991．『現代形容詞用法辞典』東京堂出版．
- 飛田良文・浅田秀子．1994．『現代副詞用法辞典』東京堂出版．
- 松村明（編）．1995．『大辞林』三省堂．
- 民衆書林編集局（編）．1998．『日韓・韓日辞典』民衆書林．
- 初山洋介．2001．「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」『認知言語学論考』NO1．pp. 29-56．ひつじ書房．
- 初山洋介．2006．『言語学 ハンドアウト』名古屋大学留学生センター．
- 森田良行．1989．『基礎日本語辞典』角川書店．
- 安田吉実・箕輪吉次・孫洛範・李淑子（編）．2006．『韓日辞典』民衆書林．

例文出典

- (1) CD-ROM 版『新潮文庫の100冊』（1995）
- (2) 検索エンジン google(<http://www.google.co.jp/>)

(3) KAIST Concordance Program(<http://csfive.kaist.ac.kr/kcp/>)

(4) 検索デスク (<http://www.searchdesk.com/>)